

福井市学校版環境ISO 実施計画書

福井市長 様

私たちの学校は、恵み豊かな環境を守り未来に引き継いでいくために、環境保全に関する学習、教育及び活動を積極的に行って環境にやさしい学校づくりと生命や自然の大切さを理解し郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成に取り組むための実施計画を作成しましたので、福井市学校版環境ISO認定制度による認定の更新を申し込みます。

令和 3年 5月 12日

学校名 福井市岡保小学校

校長氏名 小島 啓市

1 今年度の目標(学校の約束)

- ①岡保地区の環境、地球環境について学習します。
- ②水や電気、紙などの資源を大切に使います。
- ③ごみの分別をしっかりとし、リサイクルに努めます。

2 取組内容

① 環境に関する学習

- ・SDGs について学び、岡保地区の SDGs を作成する中で、岡保地区の環境について調べ、環境への興味を高める。
- ・清掃センター・浄水場・浄化センターなどの施設の見学を行う。

② 節水・節電、紙の再利用の取組

- ・水道やスイッチにポスターやラベルを貼り、節水・節電を呼びかけたり、反古紙を利用して、ごみとして捨てる紙の量を減らしたりする。

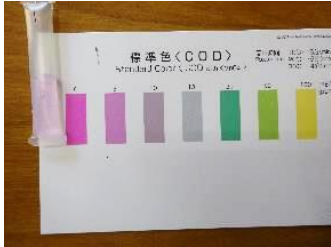
③地域と連携してごみの分別回収・清掃活動

- ・リサイクルボックスを用意し、ごみの減量を図る。
- ・古紙やアルミ缶などの回収を PTA や地域と連携して行う。

★ **E S Dポイント**（取組内容の内、1項目についてE S Dの視点をどのように取り入れるかを記載してください。）

①について、様々な施設を見学する中で、現在の生活を見直し、持続可能な未来を想像する力を養う。（批判・未来）

福井市学校版環境ISO 実施報告書

学校名 岡保小学校	
1 今年度の目標（学校の約束） ①岡保地区の環境、地球環境について学習します。 ②水や電気、紙などの資源を大切に使います。 ③ごみの分別をしっかりとし、リサイクルに努めます。	
2 取組内容 ① 環境学習 ・4年生が社会科の時間に、クリーンセンターの訪問を行った。ごみの焼却処理を見学するとともに、ごみが正しく分別されずに捨てられているという現状を知った。また、環境のためにもごみの分別が大切であることを学んだ。    ・5年生は宿泊学習で、6年生は修学旅行で「きいばす」を訪れ、身近なエネルギーの特徴を知り、日頃の暮らしや地球環境について考える学習をした。    ・5年生が総合的な学習の時間に、地域学習の一つとして「岡の泉」という地下水の泉の水質調査を行った。COD（化学的酸素要求量）、鉄分、亜硝酸、全硬度、pHの値を調べ、どの項目も基準値以下できれいな水だということを改めて学んだ。  ・5年生と6年生合同で、「節電教室」と「フードマイレージ教室」を行った。「節電教室」では、普段使っている家電の電力消費を学び、どのように節電していくかを考えた。「フードマイレージ教室」では、輸送するさいに出る、二酸化炭素量について知り、地産地消と合わせて、環境について考えた。  	

②水や電気、紙などの資源に対する取組み

- ・ 5年生の総合的な学習の時間に、節水に関する班、節電に関する班、5Rに関する班などに分かれて、資源の大切さを学んだ。3～6年生に向けて、節水班は水の大切さを訴えかけ、校内にポスターを掲示し、蛇口のチェックを行った。節電班はスイッチの所に節電を訴えかけるマークを掲示し、教室の電気の消し忘れがないかのチェックを行った。5Rに関する班は、教室のごみ箱に燃えないごみが混ざっていることに着目し、燃えないごみ用のごみ箱を設置する活動を行った。



- ・ 5年生の総合的な学習の時間の一環で、教室に設置している「リサイクルBOX」を回収し、教室で出るプリントや色画用紙などの紙類を燃えるごみとしないようにしている。回収して資源ごみとして扱っている。



③地域と連携したごみの分別回収

- ・ 古紙やアルミ缶などの回収を PTA や地域と連携して6月と11月に行った。



★ ESDポイント（取組内容の内、1項目についてESDの視点を取り入れたポイントを記載して下さい。）

①について、様々な施設を見学する中で、現在の生活を見直し、持続可能な未来を想像する力を養うことができた。（批判・未来）

3
見
直
し

【具体的効果】

- ・ 総合の時間や生活科の時間に地域の環境について学習することにより、児童の中に環境を大切にしようとする意識が高まった。
- ・ 環境教育と総合的な学習や理科、社会科の授業を教科横断的に扱うことで、理解が深まり、自然環境を守っていこうとする意識を高めることができた。
- ・ コロナウイルスの影響もあったが、出来る範囲で様々な体験ができた。

【改善点】

- ・ コロナウイルスの影響もあって難しい面もあるが、全校への発信に留まらず、地域への呼びかけや地域と連携する活動を行いたい。
- ・ 児童自らが環境のために発想する活動を全校で考えて取り組みたい。